

## 国有林の間伐事業の評価（案）の概要

### 1. 事業概要

事業内容：健全な森林の造成に向けた間伐、壊れにくく耐久性のある路網と林業機械等を合理的に組み合わせた作業システムによる間伐材の搬出等の業務。

実施期間：全国 8 事業箇所において平成 25 年 4 月以降、同年度中に契約を締結した日を始期とし、平成 27 年度中において契約を完了する日を終期とする 2 年を超える期間。

応札者数：2～4 者（再入札除く。）

### 2. 実施状況に関する評価

○ 確保されるべき質として設定された以下の項目をおおむね達成している。

#### 1 事業全体の企画立案及び進行管理等

- (1) 生産性の向上・低コスト化、現場従事者（作業員）の技術向上、安全の確保を推進する観点から事業の実施方法を企画し、事業計画が策定されること。
- (2) 適切な進行管理が行われ、作業時の周辺環境の保全や整備した路網の維持管理について配慮がなされていること。

#### 2 間伐

- (1) 地域の地形、地質、降水量等を踏まえ、適切な選木、伐採率により抜き伐りが行われ、林分全体として偏りのない適正な立木密度が確保されていること。
- (2) 残存する立木に著しい損傷が生じていないこと。
- (3) 林齢、蓄積、地形等に応じて低コストで効率的な間伐を実施するための作業システムが構築されていること。
- (4) 径級、曲がり等に応じた適切な造材・選別が行われていること。

#### 3 路網整備

- (1) 作業システムに対応し、使いやすい適切な線形、路網間隔、路網密度、道幅等になっていること。
- (2) 地域の地形、地質、降水量等に応じて、路面に集まる雨水が分散排水、誘導排水される線形設計及び施工になっていること。
- (3) 切土量・盛土量を均衡させて切高を抑え、盛土部分を走行に使える強固なものにするなど、壊れにくくするための各種工夫が採り入れられていること。
- (4) 路網開発のための立木の伐開幅が最小のものとなっていること。

(5) 現地発生資材を有効に利用していること。

### 3. 実施経費に関する評価

本事業の実施経費について、同一箇所の従来経費と比較することは困難なため、別に単年度契約で行っている国有林の間伐等事業（以下「単年度事業」という。）と比較すると以下のとおり。

本事業は、単年度事業に比べ、平均応札者数は上回っており、平均請負単価についても、事業規模が大きいほど間接費が縮減されること等により1㎡当たり843円(5.9%)の削減となり、一定の削減効果があったものと評価できる。

区分	平均応札者数	平均落札率 (%)	平均請負単価 (円/㎡)
本事業	2.4	95.7	13,490
単年度事業	2.3	90.9	14,333
差(削減率)	0.1	4.8	▲ 843 (5.9%)

### 4. 今後の事業

本事業については、業務の適正かつ確実な実施に向けて、アンケート結果、ヒアリング等を分析し、地域の競争性の状況を把握しつつ、平成27年度開始事業からは植付業務（伐採後の地拵え、苗木の植付等）を追加しており、その業務範囲の拡大措置を通じて、更なる応札者の拡大に向けた取組や入札環境を整備していくことが必要である。これらについて検討を加えた上で、引き続き、民間競争入札を実施することにより、民間事業者の創意工夫を活用した公共サービスの質の維持向上及び経費の削減を図っていく必要があるものと考えられる。

以上